

「二次的自然を主な生息環境とする純淡水魚保全 のための提言」の作成(案)

1. 目的

- 二次的自然を主な生息環境とする純淡水魚を対象とし、地域社会における自主的な保全活動を促進することで、その生息環境の保全・再生を進める。

2. 提言の対象

- 環境省、関係省庁、地方自治体（特に環境、農業、水産、河川、文化財部局）、農業者、現場で保全活動を行う団体、研究者、その他関係団体 等

3. 提言の主な内容

- ①純淡水魚の生息環境の保全・再生、外来種・密漁対策の推進
- ②合意形成の促進や情報共有のための場や体制の構築
- ③純淡水魚保全に関する調査・研究の推進

4. 事業期間

- 平成 26 年度～平成 27 年度

5. 検討体制

- 淡水魚保全のための検討会を設置。メンバーは別紙。

6. スケジュール

<平成 26 年度>

- 事例調査及びその結果検討、関係省庁施策紹介（計 3 回）

<平成 27 年度>

- 提言の骨子（第 4 回）、素案（第 5 回）、とりまとめ（第 6 回）。
※第 4 回と第 5 回の間には補足調査も実施。

<平成 28 年度以降>

- 提言を受けた取組を実施（関係省庁プラットフォーム設置【要検討】等）。

別紙 淡水魚保全のための検討会 メンバー

所 属	職 名	氏 名	分野
滋賀県立琵琶湖博物館	主任学芸員	金尾 滋史	魚類繁殖学
大阪経済法科大学 教養部	教授	加納 義彦	保全活動
国立研究開発法人 土木研究所 河川生態チーム	上席研究員	萱場 祐一	河川土木
三重県総合博物館	主査	北村 淳一	保全活動
東京農工大学	名誉教授	千賀 裕太郎	農業土木
岩手大学 農学部 共生環境課程	教授	広田 純一	農村計画
京都大学大学院 理学研究科	准教授	渡辺 勝敏	生態学 進化学 保全生物学